続・垂高が危ない！

昨年の市報12月号で8ページにわたり、垂水高校の存続問題を取り上げました。
市民のみなさんはどのように感じたでしょうか。
市秘書広報係にも4人の方から手紙、メールなどでご意見が届きました。
垂水高校を取り巻く環境も、魅力ある高校づくりを目標に動き始めています。

垂水高校さんへ

私は垂水小学校の3年生です。

しほうの12月号に「垂高があぶない！」という記事をよんだときに「どうして高校がなくなるのかな？」とおもいました。高校のお兄さんお姉さんは会ったときに、おはよう。また、こんにちは、さようならと、あいさつしてくれるやさしい人たちがいっぱいいます。私は、たまにスポーツをしているのを見かけます。いつもよりつかれているとき、サッカーをしてるお兄さんたちのすがたを見ると、自分も元気を出そうという気持ちになります。こんなにやさしいお兄さんお姉さんがいるのに、たる小の前から垂水高校がなくなるのは、とてもかなしいです。だから、垂水高校は、ずっとずーとずっと垂水にのこしていて下さい。

松原町
山下 栞さんの手紙から

柊原
尾脇 雅弥さんの手紙から

昭和60年垂水高校を卒業して以来、18年ぶりに母校を訪ねました。随分と古くなった外観とは裏腹に矢神校長をはじめとする先生方の熱意、（笑顔であいさつする）生徒たちの素直さには大げさなようですが、驚きとともに新鮮な感動を覚えました。

「垂高が危ない（市報たるみず12月号）」の特集を読みました。家族全員が卒業生である私にとって、ビックリするタイトルでした。しばらく目を通すうちに「不安」は「期待」へと変わりました。先生方の学力向上への取り組みはもちろん、生徒の皆さんへの愛情、また、人間としての成長を心から願う先生たちの想いが紙面を通して、ひしひしと伝わってきました。生徒たちのディスカッションのページでは、皆さんの楽しい雰囲気が明るい表情となって納められていました。タイトルの危機感は吹っ飛び、すがすがしささえ感じ「久しぶりに垂高へ行ってみたい」と思いました。

しばらくして、垂高へおじゃまする機会があり、先生方、在校生の皆さんと交流のチャンスをいただきました。生徒の中には具体的な夢があって「将来は○○をしたいんです。そのために△△へ進学し、今はこういう事にチャレンジしたいんです」と目を輝かせ話してくれる女の子もいました。目標のある人の素敵な笑顔でした。その瞳の奥に「存続問題」があること自体、不思議でした。

夢を持つこと！
将来を語れること！
更に未来のビジョンを描くこと！
学ぶために!!
成長のために!!
生きるために!!

何より大切なことだと思います。でも難しいこと。

すぐにでは無理でも、たとえ今の貴方にはなくても「現在の垂高には、そこでの3年間には、その可能性が満ちあふれているな」と感じました。

皆さん、まずは足を運んでみてください。

垂高のルネッサンスを心から願う、多くの先輩の一人として筆を取りました。

魅力ある人間をつくる。それが今の垂高ならば可能だと信じています。

Profile

中山 光宣（なかやま みつのぶ）さん

昭和15年３月１日生まれ（63歳）
浮津振興会会長

略歴
平成8年3月、筑波大学化学系講師を退官
理学博士
現在、牛根公民館で学習会主催
これまでのべ80人を指導

平成8年3月、筑波大学化学系講師を退官し、妻光子さんの郷里本市牛根に永住の意志を固め帰郷した中山光宣さん。

中山さんは平成12年の市長へのメッセージや垂水高校へ要望書を提出するなど、約8年前から垂高の改革に向けて提言を行ってきました。

中山さんは、帰郷後、地元中学生を対象に数学を指導するボランティア活動を通して、地元垂水高校を受験する生徒が少ないことに疑問を生じたことから垂高問題について考えるようになりました。

「そのころ、垂水高校の生徒たちは集中して勉強ができる環境ではなかったような気がします。垂水高校が無くなることになれば、それは学校の責任ではない。学校任せの市民の責任だと思う。市民の理解と協力があれば、垂水高校はきっと良くなると信じている。市民の皆さんに本当に教育問題について考えてほしい」と感じたそうです。

また、他校を受験する理由に多くの人が「大学進学を目的とするため、少しでもレベルの高い学校に」と答えていると聞き、同じ公立高校でありながら、指導する先生や指導力に差があるわけがない、垂高に進学する子どもたちの学習意欲の差ではないかと考えたそうです。

「学習意欲を向上させることは難しいことではありません。家庭で十分できること。本人と向き合わないで学校に押しつけるのは筋違い。ちゃんと子どもと向き合い、学習意欲を引き出す方法を考えてほしい」

垂高が変われるチャンス

「ここ数年の垂水高校は、校長以下教職員のスタッフにも恵まれ、また、学習意欲のある子どもたちが多く集まり、素晴らしい学校になっているようです。私個人としては、他校の進学校に行くより、本当に学習意欲があれば、自分の希望がかなえやすい環境であると思っています。先生方は、子どもとしっかり向き合い、長所を伸ばしてくれるし、個別指導にも応じてくれている。今、とても恵まれた状況だと思います」

そして最後にこう話してくれました。

「魅力ある人間をつくる。
それが今の垂高ならば可能だと
信じています」

下宮町
ysclub
さんのメールから

市報の「垂高が危ない！」を見ました。

垂高の存続問題については、以前から知っておりましたが、日頃から市民の関心の無さと言いましょうか、他人事のようなところには情けない気持ちでおりました。今回の企画はすばらしいと賛同しております。街から、高校生の生活が失われると本当に活気のない街になると考えております。

世間では、市町村合併の問題で大変苦慮している現状ではありますが、私は以前から垂水を「老人福祉の街」に方向付け、それに向け官民一体となった運動をすればと考えておりました。その方向性を見出すことで、街とした主体性も生まれるし、また、今回の垂高の存続問題でも福祉関係学科を主体とした高校に生まれ変わらせれば、このような寂しい事にはならなかったのではと思っております。

今後、学科再編において大変厳しい現状であるとは十二分に認識しておりますが、とにかく行政として垂水が活性化するための目標を一本化し、ガムシャラに進む心意気が欲しいと思います。

垂水高校振興対策協議会 加盟団体の考え方

垂水高校振興対策協議会は、平成９年に「地域の活性化は教育にあり」という信念に基づいて、市民が安心して暮らせる教育環境を整えるとともに、垂水高校の振興・発展を支援することを目的に、市や議会、垂高同窓会、垂高ＰＴＡなど関係団体22団体が会員となって設立されました。
今回の特集にあたり、各加盟団体に対してアンケートを行い、垂高存続問題についての考えをお聞きしましたので紹介します。

垂水高校ＰＴＡ 同役員会としての回答

■この垂高問題に対して、貴団体ではどのように受け止め、どうすべきと考えていますか。

高校の存続問題は、文化の存続問題でもあり、垂水市民にとっても重大なことと受け止めている。

■魅力ある垂水高校にするため何が必要だと考えますか。

【貴団体は】生徒・教師・親・地域と一体になった活動。
【市民は】一人一人が垂水高校への関心を持つこと。
【学校は】情報公開（どのような学校活動を行っているか）と地元中学校や地域との交流。

文教厚生委員会委員長 池田和弘さん

■この垂高問題に対して、貴団体ではどのように受け止め、どうすべきと考えていますか。

単に高校がこの垂水地区からなくなるというだけでなく、大きな意味でこの地区全体の活力が失し、衰退につながっていくことになる。垂水の特長やニーズに対応した学校づくりに取り組む必要がある。

私たち文教厚生委員会のメンバーの多くが垂水高校振興のための具体策として、福祉総合学科の新設を希望しています。本市は32％を越える高齢化率で、まさに超高齢社会に突入している今、温暖で自然豊かなこの垂水地域を高齢化社会のモデル地区として充実させ、高齢者を支える人材も地元で供給できるものの考えています。

■魅力ある垂水高校にするため何が必要だと考えますか。

先日、垂高生と意見交換を行いましたが、垂水高校の生徒のみなさんは、素直で明るい子どもたちです。先生方も一人一人の生徒を大切にして、ゆとりの中にしっかりとした教育を行っていらっしゃいます。市民のみなさんも生徒たちとふれあってみてください。

垂水高校自体は、今以上に地域に開かれた学校づくりを行い、生徒一人一人の顔の見える学校づくりをしてほしい。

垂水市ＰＴＡ連絡協議会会長 石躍隆利さん

■この垂高問題に対して、貴団体ではどのように受け止め、どうすべきと考えていますか。

中学生を持つ親にとっては、垂高が廃止されると月3～4万円の負担増となり、大変な経済的負担となります。もちろん経済的なものだけではないですが、非常に大きな問題であります。市Ｐ連としては、垂水高校と一心同体という気持ちで、協力に存続運動をしていきたいと考えています。

■魅力ある垂水高校にするため何が必要だと考えますか。

【貴団体は】垂高のＰＴＡと今まで以上に連帯し活動していきたい。
【市民は】もう一度、垂高の存在を見つめ直してほしい。
【学校は】一人でも多く垂水の中学生が垂高を受験したいと思うような学校づくりを進めてほしい。

振興会連絡協議会会長 中村義彦さん

■この垂高問題に対して、貴団体ではどのように受け止め、どうすべきと考えていますか。

旧制女学校より、唯一の垂水中等教育の歴史は古いものがある。垂高存続問題は垂水市民の最も願うところと確信し、振興連としては、住民の代表として存続を強く要望します。市民、各種団体が協力しながら存続について計画を立てる必要性を感じます。

■魅力ある垂水高校にするため何が必要だと考えますか。

市民は、垂高がなくなれば、どのようなことになるか考えてほしい。そして存続に対しての行動を起こしてほしい。

学校は、大学・専門学校入学への実績をつくり、垂高の実力を大いに発揮し、入学者を増やす教育に全力をあげてほしい。

垂水市文化協会 長友忠男さん

■この垂高問題に対して、貴団体ではどのように受け止め、どうすべきと考えていますか。

ふるさとの子らを育み、成長を見守るためにも、存続振興策は必要。

■魅力ある垂水高校にするため何が必要だと考えますか。

市民は、唯一の公立高校を大事に発展を。文教心の意識高揚を。

学校は、まず公立大進学実績を。就職に希望のもてる福祉等の新科設置を。

経財界等で成功した先輩の郷土学習で誇りを。スポーツ・学芸等上位入賞で垂高の名声を。

垂水ライオンズクラブ会長 藤川弘洋さん

■魅力ある垂水高校にするため何が必要だと考えますか。

少子化の時代になり高校進学の条件も比較的広き門の状況になって選択の幅も広くなるような感じがします。

受験希望生のニーズ（大学進学・スポーツや文化活動）等に応じられる学校づくりが可能かどうか。また、日常の生活指導も大切ではないでしょうか。

垂水市森林組合 岩田幸治さん

■この垂高問題に対して、貴団体ではどのように受け止め、どうすべきと考えていますか。

垂水市唯一の高校であり、必要性は特に感じる。高校の存在は地域の活性化に欠かせないものと思われる。

■魅力ある垂水高校にするため何が必要だと考えますか。

独自のカラー（個性）ある学科等の新設が必要と思われる。現在は中途半端な存在に思われ、魅力ある高校とは言い難い。現代社会の変化はめまぐるしく、高校は会社社会等に連動する必要があると感じます。

市小学校校長会会長 川原史郎さん

■この垂高問題に対して、貴団体ではどのように受け止め、どうすべきと考えていますか。

市報を見た児童が垂水高校へ激励の手紙を出していました。子どもたちはこれからの社会の動きで中学、高校と進んでいくわけですので、大人以上に関心を持っています。

校区内に高等学校があり、子どもたちの向学心に結びつくものがあります。地元に高校を存続させることの必要性を是非広げていき、高等学校も努力して、垂水市に垂水高校ありと思わせる学校に日々努めていただきたいと思います。

小中高が連携しながら、基礎学力をしっかり定着させるよう、各段階での強化を図っていくことが、私共に与えられた責務であると思っています。

垂水高校同窓会会長　児玉光明さん

■この垂高問題に対して、貴団体ではどのように受け止め、どうすべきと考えていますか。

歴史ある垂水高校、昭和48年頃生徒数約８４０人をピークに衰退の一途をたどってきている現実に対して、今こそ垂水市に１校しかないこの高校を市民一丸となり守るべきではないでしょうか。

■魅力ある垂水高校にするため何が必要だと考えますか。

９５００人もの卒業生を送り出してきた垂水高校。80年かけての年月の中で、いろんな人材が育ち、社会で活躍なさっています。

新聞等で何々高校同窓会、案内広告を目にしますが、うらやましく思うことが度々あります。垂水高校卒業生で垂水市内に在住されている方々にお尋ねしたい。あなたは垂水高校卒業生として、母校愛をお持ちですか？

垂水高校を卒業し、そして垂水で暮らす方々にとって母校愛、郷土愛。ふるさとで育ち、暮らしているために、考えることはないのではと。

まず、同窓会組織を強固なものにつくりあげ、そして垂水高校に対して、支援していくことが、もっと早くから必要なことではなかったでしょうか。

今年から垂水高校同窓会総会を毎年４月頃に行いたいと考えています。市内在住の垂水高校卒業生の皆さん、市報等で案内しますので、ぜひ、総会に参加していただき、卒業生の我々が先頭に立ち、垂水高校存続の危機を救う手だてを考え、行動しようではありませんか。

学校教育とは楽考郷生（がっこうきょういく）

楽しく学び、考え、郷土（ふるさと）で生きる高校生活。

卒業生の我々の手で支援していこうではありませんか。

市中学校校長会会長　永田彬也さん

■この垂高問題に対して、貴団体ではどのように受け止め、どうすべきと考えていますか。

地元高校が消滅するということは、垂水の子どもたちにとっては最も身近な高校選択ができなくなるわけですから、学習の場の機会均等が損なわれ、保護者の経済的負担は拡大するという由々しき事態になるという危機感を感じています。したがって、存続問題に対してはＰＴＡ活動の最重要課題の一つとして位置づけ、単位ＰＴＡや市Ｐ連でも振興対策を講じる必要があると考えます。

垂高存続の第一義的なものは、まずは学校の先生方のやる気であると考えています。モラールがあるかどうか。垂高進学が衰退していった最大の要因は学校の荒れであったと聞いています。しかし、その姿を払拭し、かつての垂高に戻そうと、ここ数年めざましい変容が見られます。その成果は着実に中学校の現場、保護者にも浸透しつつあると考えています。大切なことはその姿勢を持続することでしょう。そのことが垂高への進学選択を拡大させていくものと確信しています。

■魅力ある垂水高校にするため何が必要だと考えますか。

中学校としては、生徒たちが望ましい生き方を考え、希望や抱負が持てる「進路指導」ができる教育課程づくりをする必要があります。

市民のみなさんは、今後垂水をどのようなまちにしたいのかを真剣に考え、明確なビジョンを提言していくことが、垂水高校学科再編問題の声につながっていくのではと考えます。

動き出した垂高存続活動

振興対策協議会の活動

垂水高校振興対策協議会は、昨年８月と10月に垂水高校で同協議会を開き、本年度の活動の具体策を話し合いました。

12月号でも紹介したように現在の垂水高校は、真剣に学校生活を送る生徒が集まり、また、教職員の熱意もあり、垂高改革に向けてスタートしています。

これらのことをしっかりと市民に伝え、市民に対して意識改革を行ってもらうために、広報活動を充実していくことが確認されました。

その広報活動の一環として、12月下旬市内10カ所に「地元垂水高校に進学しましょう」という看板を設置しました。

市としても、12月と今月号の２回にわたり、広報紙で特集を組みました。

今後も同振興対策協議会は、垂水高校の振興、発展のため協議会を開催していきます。

【看板設置場所】
- ■境小学校
- ■牛根中学校
- ■松ヶ崎公民館
- ■協和公民館
- ■垂水高校
- ■垂水市立図書館
- ■錦江町旧武道館跡
- ■垂水中学校
- ■水之上公民館
- ■新城公民館

志願登録状況について

1月27日、県公立高等学校入学者選抜志願登録・願書提出が締め切られました。

その結果、垂水高校への登録者数は、普通科82名、生活デザイン科51名、合計１３３名となり、募集定員を上回りました。そのうち、垂水市内の状況は、卒業予定者１９９人のうち、約半数近くの生徒が垂水高校への志願登録をしています。これは、昨年と比較すると、18人増（14・６ポイント）と大きく数字を伸ばしました。

今後、登録変更などの期間を経て、最終的な登録者数となります。

川井田教育長は「垂高に対する市民意識の改革ができた結果。ここ数年来の垂高の魅力ある高校への変容の努力、これに応えるべく市内の中学校の先生方のご支援が実を結んだと思っています。今後は市教育行政と各中学校で協力して、学力向上に精励することが、垂高のイメージアップにつながると考えています」と話しました。

垂水高校の入学志願状況　※１月28日鹿児島県教育委員会発表

	普通科			生活デザイン科		
	募集定員	志願者数	倍率	募集定員	志願者数	倍率
H16年度	80	82	1.03	40	51	1.28
H15年度	80	73	0.91	40	38	0.95

垂水市内の状況　※平成15年度は卒業者数

	卒業予定者	垂水高校受験希望者		合計（%）
		普通科（%）	生活デザイン科（%）	
H16年度	199	76（38.2）	22（11.1）	98（49.2）
H15年度	231	56（24.2）	24（10.4）	80（34.6）

垂高ＰＴＡ県教委に要望書を提出

12月18日、垂水高校ＰＴＡの瀬角龍平会長、井之上秋秀・大迫和昭副会長は、福元紘県教育長に対して要望書を提出しました。また、要望書の提出には、水迫市長、川井田教育長、川畑市議会議長、堀之内県議会議員、池田文教厚生委員長が同行しました。

要望書は、垂水高校の振興を図るため、地域ニーズを取り入れた魅力ある学科再編を求めるものとなっています。

■福元県教育長（左端）に対して、趣旨説明をする垂高PTA役員